

## 横断的分析による成人女性の自閉症傾向と妊娠中の体の痛み

Maternal autistic traits and antenatal pain by cross-sectional analysis of the Japan Environment and Children's Study

大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座公衆衛生学

／順天堂大学大学院医学研究科疼痛制御学

山田恵子

妊娠女性の約 20%以上が腰部・骨盤周囲の痛みや頭痛といった痛みを保有していることが報告されています。妊娠中の体の痛みは、家事、病欠、人間関係、メンタルヘルス、生活の質などに影響し、産後うつや産後の対児愛着障害を増加させる可能性があると考えられ、妊娠中の体の痛みは重要な健康問題です。これまでに妊娠中の骨盤部の痛みのリスク因子として、若年妊娠、低学歴、過体重・肥満、妊娠前の運動不足、重労働、経産歴、避妊リング使用歴、腰痛歴、ストレス、うつ病歴、不安神経症歴が指摘されていますが、妊娠中の痛みのリスク因子について、さらに調べる必要があります。先行研究では、自閉症傾向があると痛みの感じ方が鈍いという報告と、敏感になるという報告が混在しています。自閉症傾向は明確な線が引かれる病態ではなく段階的であり、一般集団に広く分布しています。

そこで、本研究の目的は、成人女性の自閉症傾向と、妊娠中の体の痛みの保有割合や痛みの強さに関連があるかどうかを調べることにしました。(Scientific Reports 誌; 13: 6068, 2023)

分析に必要な主たる質問に全回答した 89,068 人の妊婦(16 歳以上)を対象にしました。その際、妊娠と関係なく痛みの原因となりえる病歴のうち比較的人数の少ない、関節リウマチ歴、潰瘍性大腸炎歴、クローン病歴がある459人は除外しました。自閉症傾向については、妊娠第 2～3 期に実施した「短縮版自閉症スペクトラム指数(AQ-10)」の回答内容を、0～6 点、7 点[カットオフ値]以上の 8 得点群にわけて評価しました。同時に、4週間以内に経験した痛みの強さを1(ぜんぜんなかった)～6点(非常に激しい痛み)で回答する尺度も実施し、痛みなし(1点)、軽度の痛み(2, 3点)、中等度以上の痛み(4～6点)というグループに分けました。

そして、自閉症傾向の程度と軽度または中等度以上の痛みの保有との関連について多項ロジスティック回帰分析で検討し、軽度の痛みと中等度以上の痛みの傾きの比較検定には、一般線形モデルを使用しました。また、以下の想定された交絡因子の影響を統計学的方法で取り除く、多変量解析を使用しています。

**【交絡因子】**年齢、妊娠前の体型、妊娠中の喫煙、妊娠中の飲酒、妊娠中の身体活動、最終学歴、婚姻状態、等価所得、雇用状態、多胎妊娠、経産歴、不安神経症歴、うつ病歴、睡眠の深さ、妊娠中の心理的苦痛。

## 結果

### ○妊娠第2～3期の女性の約20%が中等度以上の痛み有り

妊娠第1期の61.9%が軽度の痛み、第2～3期の22.3%が中等度以上の痛みを訴えました。

### ○成人女性の自閉症傾向と妊娠中の体の痛みの保有割合は関連し、軽度の痛みと比較して中等度以上の痛みの方が自閉症傾向との関連が強い

様々な交絡因子の影響を考慮したうえで、成人女性の自閉症傾向と妊娠中の体の痛みの保有割合は正比例することがわかりました。また、軽度の痛みと比較して中等度以上の痛みの方が自閉症傾向との関連が強いことがわかりました【下図】

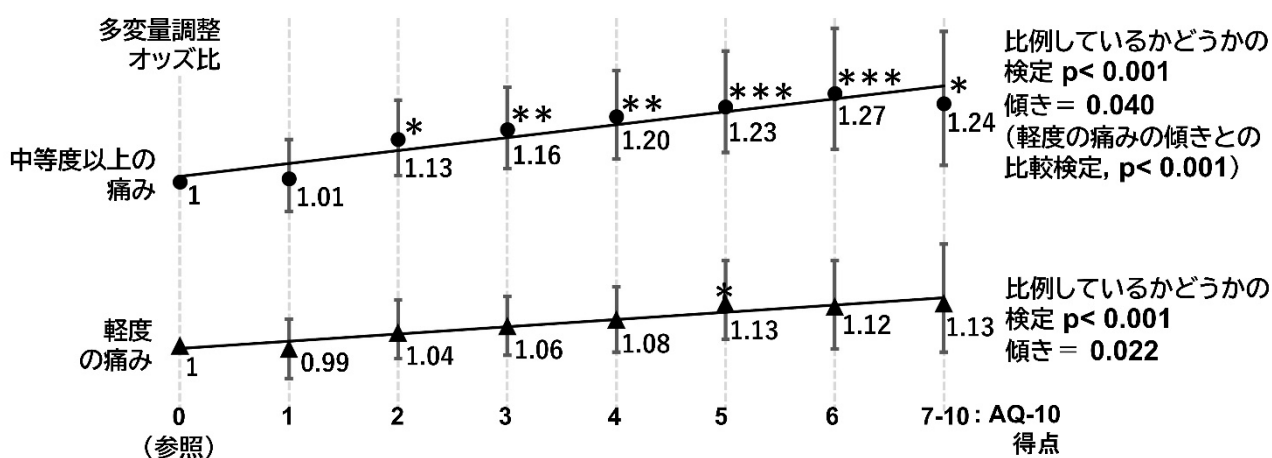


図1. 自閉症傾向と妊娠中の痛みの保有割合の関連

※中等度以上の痛みの方が軽度の痛みより傾きが大きい

### ○この研究の意義

本研究から、成人女性の自閉症傾向と妊娠中の痛み保有割合が正比例し、自閉症傾向は軽度と比較して中等度以上の痛みとより関連が強いことが世界で初めてわかりました。

体の強い痛みを訴える妊婦に対して、医療従事者は自閉症傾向の併存にも配慮する必要があります。ただし、自閉症傾向にはうつ病などの気分障害や、ADHD など自閉症傾向以外の発達障害を高率に併存することが指摘されており、結果の解釈には注意が必要です。